

2020年2月10日

あおぞら投信株式会社

「24時間 働けますか」と問われての 亭主元気で 留守のままかな」

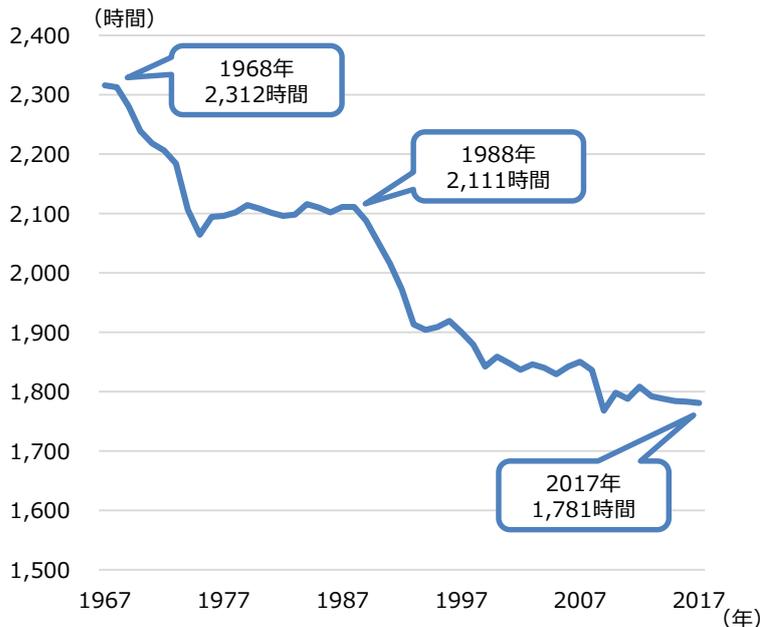
『Oh！モーレツ』というCMがテレビから流れていた時代である昭和43年(1968年)頃から昭和50年代にかけて、戦後の高度成長を支える企業戦士たちは猛烈(モーレツ)社員と呼ばれていました。この企業戦士たちは会社という組織の成長を自分の働きが支えているという自負を、右肩上がりの会社の業績と自分の給料の伸びがマッチすることによって感じ、益々インセンティブが働き長時間労働も厭わなかったのです。単純化すると、金銭的な“成長”を実感することで、会社と個人の一体感を生み出すことが出来た時代だったと言えるでしょう。

その後、昭和63年(1988年)から平成に入った頃には、高度成長期から低成長期への転換点を迎えて企業の成長力が低下し始めたことから、“戦士”だった社員が企業にとっての“コスト”に替わり、一気に“リストラ”までへと変化していきました。会社と個人の大きな関係変化であり、ただただ“モーレツ”に働いても給料が増えない状況になったということです。高度成長期は『大量消費型物質主義*』でしたが、低成長期はモノの所有を目指すのではなく、多様性を前提とするコト重視となっており、求めるものが『行動する喜び』へと変化したのです。当然に企業が応えるべきニーズも変化し、そこで働く社員も多様な課題を創出し、かつ解決を示すといったことが求められるようになりました。すなわち、今日の社員は、「誰のために、何を、どのように進めるか」という問いかけに対して、“モーレツ”に考えなくてはならず、そのために行動しなければならないのです。多様な個性を活かすことが企業にとって必要であり、働く個人の喜びも一企業の都合との単純な関係だけではない時代となったのです。何に対して“モーレツ”なのかは自分が判断することが大切だと考えます。

*大量消費型物質主義：市民の需要を満たすことが企業の収益と社会の発展に直結するという考え方(筆者造語)

柳谷俊郎

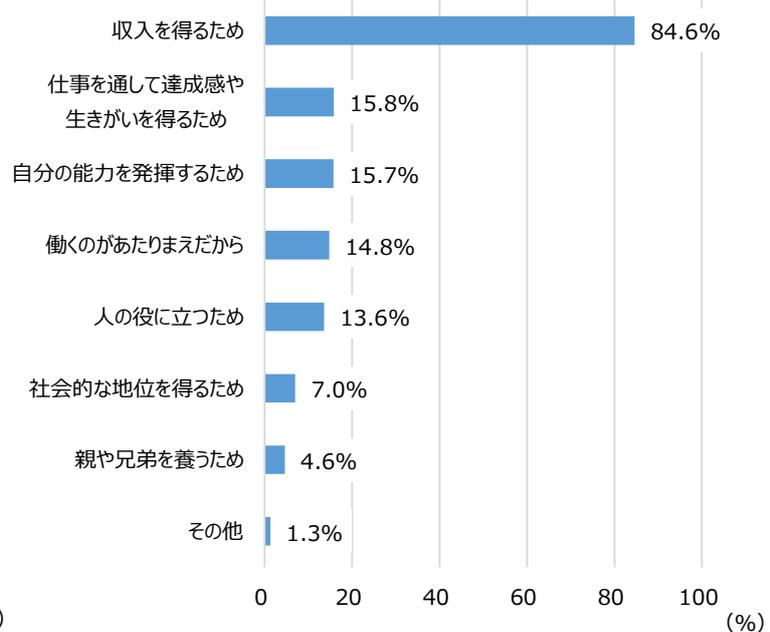
労働者1人あたりの平均年間総労働時間数
(1967年～2017年)



※年間総労働時間は、各月間平均値を12倍し、小数点以下第二位を四捨五入したものです。

※規模30人以上の事業所であり、1969年以前はサービス業を除く調査産業計。

若者の仕事をする目的についてのアンケート結果
(2017年度)



※全国の16歳から29歳までの男女を対象としたインターネット調査。

※「あなたは、主として、何のために仕事をするのですか。」の問いに対する回答。

出所：厚生労働省「毎月勤労統計調査」、内閣府「平成30年版 子供・若者白書」の情報を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>